

とも子助産院

助産師 伊藤 朋子

〒981-3124宮城県仙台市泉区野村字野村95-6

Tel 022-772-5960

Fax 022-772-5961

メルアド tomo@tomo-j.jpPCサイト <http://www.tomo-j.jp/>携帯サイト <http://www.tomo-j.jp/keitai/>

助産院のお産、継続決定！

医療法19条クリア。

日本人だもの、畳の上で産みたい。

昨年よりご心配をおかけしておりました、医療法改正による助産所開設要件の厳重化により助産院でのお産の継続が危ぶまれた件、仙台産婦人科医会や県の医療行政のご理解をたまり、宮城県の助産所3箇所は、連携医療機関確保が決まり、来年度以降も、これまで同様にお産を扱っていくことが出来ることになりました。とも子助産院は、桜ヶ丘の産婦人科麻酔科高橋医院と台原の結城産婦人科に嘱託医の了承いただき、後方支援病院として、仙台市内総合病院の4病院が内定しました。ご協力いただいたみなさまには、本当に感謝いたします。ありがとうございました。

安全な医療を提供するための大きな法改正の一部に、今回の19条の改正もありました。これまで、嘱託医がいれば開業できた助産師ですが、平成20年4月からは、産科小児科の救急を24時間扱える病院との連携がないと、お産を扱ってはいけない決まりになりました。法改正案が発表されてからというもの、その運用をめくり、諸団体による様々な見解や厚生労働省令が出るたびに、一喜一憂し振り回された1年でした。折からの産医不足や医療訴訟の増加もあり大きな病院は、お願いに行っても、どこも簡単にはOKをくれません。河北新報は「お産SOS」という連載記事のなかで、お産の現状を何度も取り上げてくれました。お母さん達の集会や、議員さんたちの働きかけもありました。誌面やインターネットで、見聞きして、心配してくれていた方も多かったと思います。何か記事になるたびに、沢山の電話やメールを頂きました。ありがたかったです。明治以来手付かずだった助産所でのお産をめぐる質の検証に国が取り組み始めた証拠です。ただ開業助産師を困らせようとした法律ではなく、産婦さんと赤ちゃんを守ろうと出来た法律なのだから、きっと何とかなるさと、信じていました。お産を扱えなくなっても、産褥入院・母乳相談・性教育・・・と助産師への地域ニーズは沢山あるし、助産院は続けようと思いましたが、助産師というからには、やっぱり「助産」がしたい。妊婦さんを始めから産後まで見届けるお産を続けたいと願っていました。口に出せば願いはかなう！嬉しいなあと思います。

2007年は、分娩件数79件。助産院出産予定でしたが医学的理由で病院出産になった方4人、生まれてから検査・治療で病院のお世話になったかた9人。いずれも、いい医療連携で乗り越えられたと思います。感謝です。この秋からは、助産師のための超音波検査などの研修が頻繁にあり、医師が助産師と連携してこのお産現場の窮状を乗り越えていこうとしていることを肌で感じます。皆さんの期待を裏切ることなく、一層いいケアを提供できる助産院になれるよう、仲間と力を合わせて精進していきたいと、思います。穏やかで平和な1年となりますように。皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。



2007年、

とも子助産院の出来事

春、原田助産師、とも子助産院に降ってくる。夫の赴任で仙台へやってきた彼女。大阪の助産院で2人出産し、新生児訪問の経験もあるとのこと。助産院へ見学に来たところを、即刻ゲット。几帳面で優しい性格。助産院のスタッフにぴったり。これは春から縁起が良かった。青葉区の森のおひさま助産院の開業経過も順調で心強い。新しいホームページもオープン。田沢こども医院の田沢三代先生による助産院への往診での新生児健診も続いています。

夏、近藤助産師、とも子助産院で出産。スタッフのお子さんがここで誕生するのは、これで8人目。ここだけのなし、うちで生まれた子は、特別にかわいい気がする・・・

NTT東北病院を会場にラクテーション・コンサルタント協会の母乳育児支援学習会の18時間基礎講座を開始。基礎から系統的に学びなおす。「母乳、母乳」といっていると、ミルク勢力優勢の世の中では、なんとなく孤独感を覚えてきた。けれど同期受講のメンバーとは、おっぱい仲間の絆を感じ、エナジー充填。これからも、母乳、母乳といい続けよう。7月、友人の菅原光子助産師が秋田で、助産院イスキアを開業。彼女は東北で数少ない国際認定ラクテーション・コンサルタントのファシリテーター。三浦孝子助産師とともに、私達の母乳学習会の講師を務めてくれている。産科施設不足が一層厳しい秋田では医療連携が難しく、今は分娩を扱わない開業ではあるものの、いつかはお産の介助のできる助産院に発展することを祈る。たびたびの仙台滞在中も菅原・三浦両助産師の携帯電話には、お母さん達からのSOSが、次々入ってくる。遠いところ、申し訳ないなあと思いつつも、この学習会は、大忙しのこの2人を仙台へ呼びつけ、2008年も開催予定。

秋、青年海外協力隊で、エルサルバドルに赴任するという阿部助産師が「病院のお産しか経験がないので。」と助産所研修にきた。予定日より遅れた赤ちゃん、早まった赤ちゃん、なぜか集中、ある夜は、まるでお産祭り。11月は13人の出産があり、てんてこ舞い。同伴入院の子供たちが7人も登校していった朝もあった。阿部助産師、大活躍。スタッフおお助かり。よく働き、よく学んだ秋だった。9月、母乳育児支援学習会。小児科医、瀬尾智子先生と大葉ナナコさんの講演会。青森の家族看護学会参加。10月、リボン出張講座。桂市民センターに、河合蘭さん、きくちさかえさん、熊手麻紀子さんの豪華3講師陣集結。11月、いいお産の日。開業助産師ネットワーク主催で、電力プラザで開催。恒例、仙台ゴスペルフェスティバルには、妊婦ゴスペル隊、5年連続出場。楽しかった。

冬、「助産所に興味があって。」と若い助産師たちからのアクセスが増え、見学者ぞくぞく・・・なんだかい予感。伊藤の自慢は、人間運のいいこと。パソコンが調子わるいな～とっていると、システムエンジニア、ヨガクラスのお世話係がほしいなあ、と思うとヨガインストラクターと、うぶごえ座（性教育チーム）のスタッフがほしいなあと思うと元劇団員・・・次々と有能な人材が訪れ、結局何とかになってしまう。この運の強さは、一種の才能。そして迎えた、2007年の大晦日も産声に包まれ、いいお年越しとなりました。

今年からは、中村助産師が仙台市の新生児訪問の委託を終了、とも子助産院の副院長として助産院業務に専念してくれることになりました。ケアスタッフ・家事スタッフ・サークル担当スタッフ・ママサポーターに支えられ、伊藤は右手・左足に加え、羽まで生えた心地です。いつでも拘束の身の上でしたが、少しは出かけられるようになるかもしれません。期待しています。



111人 / 2万人

2007年、宮城県での開業師によるお産は、4助産所合計で111人。一時は時代の流れで衰退の一途をたどるかに見えてましたが、ここに来て盛り返し、とうとう3桁に復活。日本全体では、約1万人の赤ちゃんが、開業助産師の手で産声をあげています。比率としては、たったの1%程度。でも、この少子化の中その数、毎年微増。助産院の感想文には、「もう次はないと思っていただけで、ここで産んだら、もう一人ほしくなりました！また産みにきます！」という言葉が随所におどります。気持ちいいお産はくせになるそうです。

命の感性がいいお産と子育てに、寄り添っていきたい。先輩諸師が残した世界に誇る産婆の技を、絶やさず伝えていきたい。

「こんなに給料安いのに、また子供増やして、馬鹿じゃないかって言われるんですけどね〜。」と、ニヤケ半分ぼやく父たち…。産みたい人が、産みたいときに、気持ちよく産んで、安心して育てられるようにならないと、子供なんか増えません。おかささんが幸せでないと、子供も幸せになれない。幸せな妊婦さんが増えないとしあわせなお母さんも増えない。幸せな妊婦さんは、大事にされてき女性達。自分も他人も大事に出来るひとたち。男性が幸せでないと女こどもも大事にされない。抱きしめられて、大事に大事に育つ赤ちゃん達、みんな大事に、安心して大きくなって。

小手先の育児支援や、わすかばかりの助成金増額で、少子化対策なんてっていないで、そこそこを、なんとか。エライ人たち、もっと根このところから、どうかヨロシクお願いしますよ〜。

学生実習ふえています。

産婦人科の閉鎖に伴い、看護・助産師学生の実習場所の確保に養成校は、かなり苦心しているようです。こんな小さな助産院にも実習依頼が沢山きています。私もこうして育ててもらったという思いがあり、後輩を育てたい。お母さん方への協力依頼も増えそうです。

中学生の職場体験も2校引き受けました。赤ちゃんに触れ合う体験が、人生のどこかの部分に役立つほしいなあと思います。

平成元年に助産師免許をとり、今年で20年目。初めて取り上げた赤ちゃんが成人式をむかえます。ちゃんぼらんな学生時代を思うと恥ずかしきことばかり、多かりき…ではありますが、看護・助産を志す若い人たちとの交流は、初心に立ち戻るいい機会になっています。

これからの企画

詳細は、決まり次第、助産院サイトに掲載します。

- 2月8日(金) AM まごまご 孫育て講座 若林児童館
- 3月9日(日) PM お産と母乳のワークショップ M&M&P
- 3月12日(水) PM 母乳準備クラス (高田子ども医院)
- 3月15・16日 助産学会参加 (神戸)

3月23日(日) 知らないで損する禁煙講座 講師 高田修先生
禁煙したいのに出来ない妊婦さん、禁煙する気のないパパ・家族、きつとやめられる、タバコから自由になるための講座

- 4月8日(火) AM お産リハーサルクラス
- 4月15日(火) AM 母乳準備クラス

4月22日(火) AM 赤ちゃんのあやし方・遊びかたの会

講師 神原雅子さん(せんだい社のこども劇場)
対象 妊婦さん・6ヶ月以下の赤ちゃんとママ

5月 まごまご 孫育て講座

6月 母乳と歯の話 宮城県歯科医師会館

8月8日(金) 10時 世界同時授乳

世界母乳週間 8月1日~7日
参加者&ボランティアスタッフ募集。世界中で同時に授乳した人数をギネス登録して、母乳育児の大事さをアピールするイベント。仙台は今回初参加。



伊藤家近況

父母&夫との大人4人の、日常は相変わらず。子供たちが、たまの長期休みにやってくるのを心待ちにし、姪っ子・甥っ子の成長に目を細め、・・・といったところ。10月から郵便局が民営化。会社員となった夫は、以前にも増して忙しそうでもありませんが、趣味のバイクとアウトドアの研究には余念なし。

助産院の玄関にツバメが巣をつくったり、隣の田んぼに白サギや、白鳥の飛来があったり。のどかな仙台の日々でした。

小児科での母乳育児支援室

毎週木曜14時~16時になりました。

利府のたかだこども医院へ、とも子助産院から助産師たちが交替でうかがう、母乳育児支援室、続いています。

赤ちゃんとお母さんをセットで診て、母乳育児を進めていこうという、小児科医としての高田修先生の志に感銘を受け、助産師たちは嬉々として通っています。

盛岡で開催された東北外来小児科研究会で、この取り組みの報告をさせていただきました。

予約制で、1回1000円。この日、乳児健診においてになった方の助産師相談はは無料です。

お近くの方はご利用ください。

高田子ども医院 電話 022-767-6555



産後入院のススメ

分娩施設の統廃合がすすみ、どこの産婦人科も激混みです。

待ち時間長く、入院期間短く、母乳が十分出るまで、お母さんの育児に自信がつくまで、病院スタッフはゆっくり見守ることができない時もあるようです。

そんなときには、助産院へ産後入院。助産院でお産しなくても、助産院でのんびり産後を過ごして、母乳育児を確立させて、自信をもって自宅での育児に立ち立てできるように、休養・練習していく仕組みです。育児不安だけでなく、実家が遠かったり介護者がいたり、家事サポートのない家族に喜ばれています。

多賀城市の小山みねこ助産師が産後入院に力を入れています。(電話022-365-5809)

今野馨子(けいこ)助産師が、泉区山の寺に産後入院専門の助産院を建築中です。春にはオープン予定。お産は扱いませんが、シックハウスとは無縁の天然素材の建物で、おいしい自然食と優しい手当てが受けられる助産院が誕生します。

(電話022-373-9920)

青葉区の森のおひさま助産院も産後入院OKです。(電話022-394-7508)



メデラ社 電動搾乳器の

レンタルステーション 開始

助産師(ミッドワイフ)が、お母さん(ママ)と母乳支援のメデラ社をつなぐ、3Mシステムというのに参加し、森のおひさま助産院とともに、電動搾乳器のレンタルステーションを開設しました。メデラ社は、ゴム乳首は販売しないという徹底した母乳育児支援企業。必要なお母さんに必要な期間、搾乳器をレンタルします。助産院がその仲介と、使い方の説明や母乳ケアの支援を合わせておこなっていく仕組みです。



先日、アメリカの医療ドラマ「ER」で、救命救急室の夜勤の看護師さんが休憩室で搾乳し、母乳を冷蔵しているシーンがありました。あ、メデラの搾乳器だわ！とマニアックな喜びを感じた伊藤でした。(笑)

病院用のシンフォニーという最新機種は、34万円もする高級品ですが、助産院では、1日200円~貸し出ししています。長期レンタルもできます。